

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みらい			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年11月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年11月1日 ～ 2025年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ほとんどの曜日で、支援員と児童が1対1対応が出来ていて手厚いところ。 少人数で関わるができる。	支援員として児童に積極的に声かけをしている。 子ども1人1人と関わるように職員がお話する。	さらに1人1人の特性に基づいた声掛けや関わりを持っていく。 全体がわかるような配置にしていく。
2	プログラミングができる。曜日によって、プログラミング、学習支援と集団活動の日がある。 毎週集団活動が違う。	スクラッチ、スクラッチジュニア、レゴプログラム等、子どもたちのやりたいことを選んで提供できている。 苦手なことを等を重点的に取り組める。 プログラミング時に、タブレットは同じものばかりにならないように、平等に毎月使う物を変えている。 職員同士カレンダー作成して、やることを決めている。	子どもたちにアドバイスしやすいように、職員がプログラミングに詳しくなる。 苦手なことでも取り組めるように1人1人考える。 プログラミングの日も他児とのコミュニケーションが取りやすいように、おがみの時間など入れている。 たくさんの活動を案をいろいろ出している。 学習支援は、各々によって、課題内容を変えて無理なく取り組める内容にしている。 お買い物ごっこ等、実践も取り入れている。
3	事業所内の学校区への送迎によって、保護者の負担軽減されている。	下校時間や短縮の有無の確認を学校と連携して行っている。 対象の小学校の送迎希望を必ず保護者に確認している。	短縮の有無や長期休暇でお迎えの時間が変わるため、職員全員で何時にお迎えをするのかの確認を行うようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援者が児童発達支援から放課後等デイサービスに移る時に時間がないので、あと片付けが難しい。 おもちゃの棚や教材棚が子どもの手に届きやすい。 空間が狭く、学習中の子と遊んでいる子に分けづらい。	なるべく時間に余裕が持てるように努める。 大人が使いやすい分、子どもの手にも触れやすい。 パーテーション等で区切るが、区切ると両方の子たちに大人の目が行きづらい。	支援者同士で協力していきたい。 声掛けや「さわらない」マークをつけて、対応している。 全体が見えるような位置に大人が座る。
2	協力体制が少ない。 子どもと関わる職員が少ない。	職員1人1人責任が希薄になりやすい。「自分はやらなくても他者がやってくれる」と思っているかもしれない。 支援者が記録に集中して、子どもの様子に目が行き届きにくいところがある。	1人1人が責任持てるように役割分担を伝える。 役割が果たせていない時は、職員や児発管がその都度声をかけるようにする。 記録の時間は子どもたちが帰った後に行うようにする。子どもたちの行動を常に見ておくように伝える。
3	曜日によってプログラミング学習とSST、学習があること。	プログラミングに詳しくない支援者がいる。	プログラミングに対しての研修、進め方等の確認を再度行う必要がある。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス みらい

公表日 2026年2月10日

利用児童数

年 月 日

15名

回収数 8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	0	0	0		学習をするスペース、遊ぶスペースの確保をしていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	0	0	0	とても手厚いと思います。	引き続き、職員の人員の配置が適切になるようにしていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	0	0	0		引き続き、子どもたちが安心して過ごしやすい環境整備をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0	0	0		日頃から清掃を徹底し、子どもたちが安心して過ごしやすい環境整備をしていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	0	0	0		引き続き、子どもたち1人1人の特性を十分に理解して、支援をしていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	0		引き続き、ABA療育を取り入れていきます。ABAがどのような療育なのかを保護者に説明していく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	0	0	0		子どもたち1人1人の特性と保護者のニーズを十分に理解して、支援計画を作成していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	0	0	0		今後も「家族支援」「本人支援」「移行支援」の項目を支援計画に入れていく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		日頃から支援計画の内容を確認しながら、子どもたちの支援をしていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	0		今度も目標が達成している課題があれば、新しいことを取り入れたり、課題の難易度を上げたり等の工夫をしていく。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	0	3	2	特に交流を求めてないので、いいえに○しますが、不満はないです。	現在のところ、保育所や他事業所等の子どもたちと活動する予定はないですが、必要に応じて検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		引き続き、事業所の運営規程、支援プログラム、利用者負担等について、説明していく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	0	0	0		引き続き、支援計画を提示しながら、保護者には内容を説明していく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	0	0	0	なかなか参加できないのですが、スケジュールを合わせられたら参加したいと思います。	ペアレント・トレーニングやアンガーマネジメント講座等、保護者向けの講座を継続していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	8	0	0	0		今後も事前にアレルギー確認を行い、サポートブックに記載されている子ども健康状態をの情報を共有を徹底していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	0		半年に1回の面談と必要に応じた臨時面談を今後も継続していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		今後も子どもたちに寄り添って支援をしていく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	1	1		今年度から保護者会を月に1回開催し、今後も継続していきます。保護者会を行っていることを保護者に情報提供を継続していく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	0	0	1		引き続き、保護者から相談事があった時は臨時面談を提案していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0		今後も子どもたちや保護者の話を聞き、寄り添っていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	1	0	1		公式Instagram、かわら版を通して、事業所の活動や講座の案内等について、今後も発信を継続していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	0		今後も個人情報の保護を徹底していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	0	1		事故や緊急事態が起こった時の対応を保護者への説明・周知をしていきます。地震・水害・火災の避難訓練を今後も継続していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	0	0	0		引き続き、防災袋の置き場所の把握や避難経路等を周知徹底していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		今後も子どもたちの安全確保を徹底していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	0		引き続き、怪我や事故が生じた時は、速やかに保護者に連絡し、状況説明をしていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0	本当に安心できる場所だそうです。	引き続き、子どもたちが安心して過ごせるように、環境整備等をしていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	0	0	0	「やめたくない」と言います。	引き続き、子どもたちが楽しく過ごせるように、環境設定や楽しめる遊びの提案やプログラムを設定していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	0	0	0		引き続き、子どもたちが安心して楽しく過ごせるようにしていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年2月10日				
放課後等デイサービス みらい						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	子どもたち1人1人が学習やプログラミングに取り組みやすく、遊べる場所の確保をしている。	今後も子どもたち1人1人が安全で過ごしやすいスペースを確保していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	欠員が出た時は、職員の必要配置人数が不足しないように調節している。	欠員が出たり、子どもの状態によっては厳しい時があります。人員に不足が出ないように、調節していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	子どもたちが学習やプログラミングをする場所、遊ぶ場所をそれぞれ決めている。	子どもたちが学習やプログラミングに集中しやすい環境づくりと遊べるスペースを十分に確保していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	毎日掃除を行っている。 学習、プログラミング、自由遊び、集団活動それぞれスペースを確保している。	日々の清掃を徹底し、子どもたちが過ごしやすい環境づくりをしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	必要に応じて、子どもを落ち着かせる場所を作っている。	子どもたちが落ち着いて過ごせる場所を適宜提供していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	0	振り返りの時間を取り、支援をどのようにしていくかを適宜話し合っている。	日々振り返りを行い、職員同士で話し合いをする時間を設けていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	毎年保護者の方にアンケートの回答をもらっている。保護者から頂いた意見を職員全員に周知している。	保護者から頂いたご意見を基に、業務改善をしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	週1回ミーティングの時間を作っている。 必要に応じて、話し合いをし、頂いた意見を基にして業務改善を行っている。	ミーティング等で、職員から頂いたご意見を基にして、業務改善をしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	0	現在、第三者による外部評価は行っていない。	必要があれば、第三者による外部評価を取り入れる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	月に1回内部研修を行っている。また、市役所などの外部の方を講師に招いて研修を行っている。	引き続き月1回の内部研修を継続していく。 必要に応じて、外部から案内される研修にも参加する。
適応	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	ホームページにて、活動プログラムを公表している。活動プログラムを月ごとに保護者に配布している。 5領域のいずれかが含まれているプログラミングにしている。	5領域のいずれかが含まれているプログラムを立て、ホームページに公表することを継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	面談時に保護者から聞き取った内容に基づいて、支援計画を作成している。それぞれの子どもたちに必要な課題を担当者同士で適宜話し合いをしている。	保護者のニーズ、子どもたちに必要な課題を客観的に分析して、支援計画を作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	支援計画の内容を担当の先生に確認してもらい、頂いた意見を基に作成をしている。	担当者同士で話し合った内容に基づいて、支援計画を作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	職員全員の目に入りやすいところに、支援計画のコピーをおいて置き、内容を適宜確認しやすいようにしている。	担当者全員が支援計画の内容を適宜確認しながら、計画に沿った支援を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	活動記録を日々取っている。	今後も活動記録を日々取っていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	ガイドラインに沿って、「本人支援」「家族支援」「移行支援」それぞれ必要な項目を設定し、具体的な内容で支援計画を作成している。	今後も「本人支援」「家族支援」「移行支援」それぞれ必要な項目を設定し、具体的な内容で支援計画を作成していく。

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	ミーティングで、活動プログラムの内容を話し合って決めている。	今後も担当者同士で活動プログラムの内容を話し合う時間を作っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	子どもたちの課題の達成度を見て、できるようになったら新しい内容に変えている。	子どもたちの課題の達成度や飽きていないかを見ながら、活動プログラムを適宜変更していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	個別療育のみ行っている。子どもたちの状況に応じて支援計画を作成している。	子どもたちの状況に応じて、支援計画の作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	事前にどのように療育を進めていくか、5分ほど話をする時間を作るようにしている。	話し合いの時間の確保が難しい時がある。療育前に空いている時間を見つけて、話し合いができるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	毎回打ち合わせをすることが難しい。気づいた点は、その都度話し合いをするようにしている。	出来てないところはあるので、必ずする必要はあると思います。子どもたちが帰った後、5～10分ほど振り返りの時間を取るようになる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	活動記録は記載し、記録を確認しながら活動内容のプログラムを適宜変更している。	毎回は出来てないです。日々の記録を取るだけでなく、支援の改善が必要な時は話し合う時間を作る。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	半年に1回モニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	今後も半年に1回モニタリングを行い、支援計画の見直しをしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	0	関係機関と会議をする機会は少ない。関係機関との会議をすることになった時は、日頃から対象の子どもを見ている者が参加するようにしている。	関係機関との会議をすることになった時は、必ず日頃から対象の子どもを見ている者が参加するようにする。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	必要に応じて、医療機関等の連携を取っている。	必要に応じて、医療機関や園や小学校等、連携して支援を行えるようにする。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	保護者や園からご希望がある時は、保育所等訪問を行い、情報交換会の時間を設けている。	今後も必要に応じて、保育所や幼稚園と連携を行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	必要に応じて、移行先の学校と情報共有を行うようにしている。幼稚園、小学校、保育園に訪問し、子どもの情報交換を行っている。	保護者や学校側から情報共有のご希望があれば、適宜対応していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	0	学年が変わった時に、こどもの下校時刻と合流場所の確認を行っている。また、短縮等で送迎時間に変更がないかの確認を適宜行っている。	学校の年間行事や短縮の日の確認を適宜行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	園から希望があれば、適宜対応している。	今後も園や他事業所と情報共有ができるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	学校、保護者から依頼があれば、適宜対応している。利用していた時の様子の記録を渡している。	必要に応じて、活動記録の提供や利用していた時の様子の記録を提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	児童相談支援センターの職員に現在の子どもの様子を伝えて、情報共有を行っている。	今後も子どもたちの支援計画の内容や現在の子どもの様子について、情報共有を行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	現在のところ、行っていない。	機会があれば検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	児発管が参加している。	機会があり、予定が合えば参加するようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	お迎えの時に、子どもたちの様子をお伝えしている。	今後もお迎え時に、子どもたちの様子を保護者に丁寧に伝えていく。保護者から支援のご希望があれば、担当者同士で情報共有する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	年に2回ほどペアレントトレーニングを行っている。	ペアレント・トレーニング等の保護者向けの講座がある時は、保護者全員に必ず案内する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	運営規程、支援プログラム、利用者負担は契約時に保護者に説明している。	今後も保護者に運営規程や支援プログラム、利用者負担について保護者に具体的に説明をしていく。

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	定期的に面談を行い、保護者に子どもの支援の意向を確認している。	子どもたちが達成しやすい目標を担当者同士で話し合う。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	必ず支援計画を提示して、保護者に支援計画の内容の説明を行っている。 保護者から支援計画に加筆がある時は、修正して再度説明している。	今後も支援計画を必ず提示して、保護者に説明を行う。保護者から支援計画に加筆がある時は、適宜対応する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	必要に応じて、臨時面談や子育てサポートを行っている。	今度も臨時面談や子育てサポートを継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	0	今年度から月1回の保護者会を開催している。	保護者会を今後も継続していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	保護者から相談の申し入れがある時は、速やかに臨時面談の日程を調節している。	今後も保護者から相談の申し入れがあった時は、臨時面談を行うようにする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0	かわら版、SNS等、日々の活動の内容を定期的に発信している。	今後も日々の活動内容を配信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	個人情報の取り扱いには日頃から留意している。 契約時に個人情報の取り扱いの同意を得ている。	今後も個人情報の取り扱いには十分留意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	ホワイトボードや絵カードを使って、視覚支援で見通しを持てるように支援をしている。	子どもたちの特性に応じて、わかりやすく見通しが持てるようにしていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2	現在のところ、行っていない。	必要があれば、検討をしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを策定し、すぐに確認しやすいところに置いている。災害の避難訓練を行っている。	マニュアルを職員に周知し、保護者の方にも緊急事態が発生した場合の対応方法を周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	水害、火災、地震、それぞれの災害をテーマに年3回防災週間を取っている。非常袋の備え、避難訓練を行っている。	水害、火災、地震の防災週間を継続していく。避難訓練を適宜行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0	事前に子どものアレルギーや持病を確認している。	子どものアレルギーや持病の確認をして、職員全員に周知しておく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	アレルギー確認を事前に行っている。	今後も事前アレルギー確認を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画を作成し、全職員に回覧してもらっている。危険箇所の確認を行い、危険と判断した場所を見つけた時は適宜対応している。	日々安全点検を行い、危険箇所を見つけた時は適宜対応していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0	怪我や事故、急な体調不良が生じた時は、速やかに保護者に連絡をしている。	今後も緊急事態が起きた時は速やかに保護者に連絡する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハットを全職員に回覧してもらい、ミーティングで再発防止について話し合うことがある。	今後もヒヤリハットの内容は職員全員に周知できるようにし、再発防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	虐待防止の研修を行なっている。	虐待なのかどうかの判断がつきづらい時に、相談しやすい環境を作る必要がある。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	現在身体拘束を必要としていない。	必要があれば、保護者に身体拘束の件は説明を行う。